

平成27年度「研究大学強化促進事業」フォローアップ 進捗状況概要 国立大学法人豊橋技術科学大学

目的

従来の課題解決型工学から**価値創造型工学**に進化した**異分野融合イノベーション研究**を推進するための支援体制・環境を整備する。

- (1) 研究推進アドミニストレーションセンターを設置し、その中に研究戦略室、研究・産連推進室、知財管理室、技術科学支援室、URAオフィスを設置する。
- (2) URAは各室へ室員として参画し、コーディネーター等と相互に協力・連携しながら研究力強化に向けた取組を支援する。
- (3) 価値創造型工学の創成に資する研究を推進し、分野・組織の垣根を越えた研究の場を提供し、若手教員等の人材育成・獲得を促進する。
- (4) 人事労務制度改革の取組として、優れた創造的人材の獲得と育成に向け、年俸制と他機関との交流を基本とし、学内特別人事システムと多様な給与体系を整備する。

これまでの実績・進捗状況

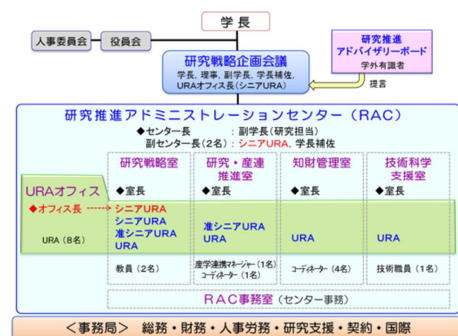
- (1) 平成25年12月に**研究推進アドミニストレーションセンター**を設置し、URAオフィスに8名のURAを配置した。URAオフィス長には、**国際企業の取締役・研究所長経験者をシニアURAとして採用**した。
- (2) 研究戦略室、研究・産連推進室、知財管理室、技術科学支援室の4つの室を設け、**8名のURAと5名のコーディネーターが連携**して、プレ・アワード、ポスト・アワード、知財活動の高度化に向けた体制強化や、共通利用研究設備の活用利便性を高める新システム等を構築し、**全学に展開**した。
- (3) エレクトロニクス先端融合研究所を異分野融合イノベーション研究の中核拠点として、**多様な人材(若手・女性・外国人)の登用と国際交流協定を拡大**した。さらに、先端共同研究ラボラトリーを設立し、**国内外の大学・機関との戦略的国際共同研究・異分野融合研究を推進**している。
- (4) 年俸制を組み込んだ**新しい人事制度「学内特別人事システム」を構築し、URAに適用**している。また、URAの人材育成プログラムを構築し運用している。

今後の課題と展望

- 研究推進アドミニストレーションセンターに所属するURAとコーディネーターの連携により、他大学・機関および産業界との協働による**異分野融合研究を、従前にまして深化**させる。
- 研究特区としてのエレクトロニクス先端融合研究所の活動を、**URAのマネジメントにより全学的に展開**し、基礎研究から成果の社会実装まで一気通貫の研究力強化を目指す。
- 優れた創造的人材の獲得と育成に向けて、「**学内特別人事システム**」を**発展**させ、異職種間の異動も可能とする制度を構築する。また、他機関や産業界との交流のために**クロスアポイント制を前提とした制度設計**を進め、社会実装と知の創出機能の向上に向けた体制の充実化を目指す。



豊橋技術科学大学の目指すビジョンと
研究大学強化促進事業との関係



研究推進アドミニストレーションセンターにおける
URA組織と人員配置（平成27年8月1日現在）

フォローアップ結果

評点区分：順調に進んでいる

全体を通じた所見

- 組織の機動力を活かし、大学全体にわたる研究推進方策、改革がきめ細かく策定されており、順調に進んでいることが確認された。
- エレクトロニクス先端融合研究所を異分野融合イノベーション研究の中核と位置付け、国際化にも注力されている。これらの活動を支える「研究推進アドミニストレーションセンター(RAC)」は4室(研究戦略、研究・産連推進、知財管理、技術科学支援)が機能的に連携できるように構成されており、今後の異分野融合イノベーション研究の発展を期待したい。

特に優れた点

- URA のキャリアパスの明確化、学内特別人事システムによる雇用の位置づけの明確化が図られ、教職員にとって魅力的な制度が整備されている。
- シニア URA として、国際企業の取締役・研究所長経験者を採用するなど、多様な経験を有する URA を確保し、研究戦略、産業連携、知財、支援など多岐にわたる活動が行える体制が構築されている。

期待する点

- 女性教員の登用方策として採用方法のみならず、学内の受入体制整備も考慮することが期待される。
- URA を増員して、更に大学の活性化が図られることを期待する。